

felissimo fund report

2008年度
フェリシモ 基金活動報告書

{ 2008.3 - 2009.2 }

2008年度 フェリシモ基金活動のご報告

フェリシモ基金活動は、お客様おひとりおひとりの善意を基金というかたちでお預りし運営しています。

たくさんのご参加、本当にありがとうございました。

感謝の気持ちとともに、ここに2008年度の全基金活動をご報告させていただきます。

はじめはひとりから、小さなことも、集まれば大きな夢の力になります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

2008年度基金総額

2008年3月～2009年2月

みなさまからお寄せいただいた基金の収支をご報告します。


期首残高	¥	118,489,563	
収入	¥	61,955,876	
支出	¥	93,418,506	
期末残高	¥	87,026,933	(2009年2月末現在)

フェリシモの森基金

TOTAL

フェリシモの森基金スタート以来、集まった基金は累計で3億円を超え、国内外34カ所で約1,541万本の植林が実現しています。

* フェリシモの森基金は、ウェブサイトもしくはフェリシモコレクションとともに申し込みいただけます。
http://www.felissimo.co.jp/f/m_entry/

フェリシモの森基金 
掲載番号 **568** 案内番号 **002-01**
フェリシモコレクション番号 **TN-667-821**
月1口 **100円**

*全額(100円)「フェリシモの森基金」として運用されます。
*この基金は、フェリシモの各種プレゼントキャンペーンの対象外です。
*次月ご注文期限内にご連絡がない場合は、次月も自動的に継続となります。

2008年度 インドからの報告

インドは、9か月にわたる乾季の影響で、いったん森林が伐採されてしまうと自然緑化が進みません。さらに、伐採された地域に人や動物が入り込んでしまうため、土地の荒廃がさらに進む状況です。そのため、特に貧しい地域では、森林の喪失が農耕地の荒廃につながるなど、地域住民の生活をも脅かす悪循環となっています。

フェリシモの森基金では、1997年よりインドのジャールカンド州、オリッサ州、西ベンガル州の3州において、森林の保護、緑化の促進を行っている現地のNGOタゴール協会とともに森づくりを進めています。2008年度の報告がインドから届きました。

■現地の人々の自立的な発展を目指した森づくり

2008年度は計画していた95万本を大幅に上回る約173万本を植樹することができました。緑化を早く進めていくために、基本的に生育が早くしやすい、アカシア系の樹木を中心に植えています。また、土壌がよく生育条件のいい土地では、現金収入になる果樹系(マンゴー、パパイヤ、カシューナッツ他)などを植えるようにしています。現地では落ち葉などが燃料に利用されるなど、住民にとってはとても有益となり植林に対する期待と意欲はますます強くなっています。プロジェクトの認知もありますが、なにより当事者である住民のやる気と実行力が大きな成果につながっています。なお、植林活動によって、36,772人日分の雇用を創出することができました。また、植林と平行して、住民の啓もうや教育を行うために361回のイベントを行い、13,664名の参加者がありました。こうした努力により植林への参加者がますます増え、主体的な行動につながっていきます。(タゴール協会より)

■緑化の推進とともに安心して生活ができる環境づくり

2006年度から3カ年計画で進めてきた、マングローブの植林計画が完了しました。地球温暖化が進む状況の中、海岸線はかつてないほど危うくなっています。世界最大級の熱帯性の三角州の生態系を有するガンジス川河口スデルパン地区も例外ではありません。マングローブの植林は、海岸線を広げ、豊かな自然の生態系と地域の安全性を取り戻すことにつながります。2004年12月に発生した、スマトラ沖地震津波は各地に大きな被害をもたらしましたが、マングローブの海岸が津波の被害を最小限に食い止めた事例が多く紹介されています。この3カ年計画は、この災害をきっかけに、緊急的に進めてきたものです。3カ年で、約489万本のマングローブを植林することができました。今後も、インドでの植林活動の一環として、少しずつ進めていく予定です。(タゴール協会より)




たくさんの方々が現地住民が啓もう活動に参加しました。現地の人々との共同作業によって植樹が行われました。2009年度に新たに植樹された地域の様子

フェリシモ地球村の基金

TOTAL

フェリシモ 地球村の基金スタート以来、集まった基金は累計で2億円を超え、世界47カ国129の活動を支援することができました。

* フェリシモの地球村の基金はウェブサイトもしくはフェリシモコレクションとともに申し込みいただけます。
http://www.felissimo.co.jp/f/c_entry/

フェリシモ 地球村の基金 
掲載番号 **568** 案内番号 **003-01**
フェリシモコレクション番号 **TN-771-122**
月1口 **100円**

*全額(100円)「フェリシモ 地球村の基金」として運用されます。
*この基金は、フェリシモの各種プレゼントキャンペーンの対象外です。
*次月ご注文期限内にご連絡がない場合は、次月も自動的に継続となります。

5歳以上の識字率は28%にしか達していないアフガニスタンのナンガハール州において、アフガニスタン国内で収集した民話や出版し、子ども図書館や図書活動ワークショップで活用するなどの子どもたちへの教育活動を支援しました。(助成団体：シャンティ国際ボランティア会)

ミャンマーのカレン州において、3歳未満児のいる貧困家庭にメスとオスのニワトリのヒナを配布し、家庭で飼育することで卵を確保し、ビタミンとたんぱく質を含む食料を継続的に摂取することができる環境づくりを支援しました。(助成団体：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)

長く続いた内戦により医療従事者が不足しているカンボジア王国ブレベン州において、保健センタースタッフ並びにコミュニティ・ヘルスワーカーの育成のための保健教育教材の作成、保健ボランティア研修を支援しました。(助成団体：シェア=国際保健協力市民の会)

地域の人びととともに育む未来への希望

南アフリカ栄養改善事業

南アフリカ共和国では、総人口の12%にあたる570万人がHIVに感染していると報告されており、特に15～49歳の成人陽性率は、21.5%で5人に1人が感染していることになりました。HIVの蔓延は、国レベルでも労働人口の減少や公的医療費の増大から経済に深刻な影響を与えています。なかでも特に問題となっているのが、片親もしくは両親をエイズで亡くしたエイズ遺児が120万人と推定されその数が増え続けていることです。子どもは差別や偏見にさらされ、誰も世話をする人が見つからないケースも少なくありません。これまでこうしたケアに必要な子どもたちへ、食料配給やキャンプ開催など緊急的な支援を行ってきましたが、地域の人々の力を生かしながら、より持続的で安定した子どもの支援の実現に向けて、2008年度は給食センターにおける家庭菜園活動を重点的に行いました。その結果、バラクワネ給食センターでは、2008年9月～11月の間に自らの野菜を使うことで800ランド(約12,000円)の支出減となり、地域の人への販売によって175ランド(約2,600円)の収入につなげることができました。また、2009年1月にリンボポ州ベンベ郡で菜園研修に参加したボランティアたちとの経験交流では、「互いの畑を訪問し、「ベンベ郡ではどこからもファンドをもらっていないのに自分たちが熱心に菜園活動を広げていることに感銘を受けた。自分たちががんばりたい」「カプリコーン郡ではハーブを利用している。自分たちもはじめたい」など互いの経験から学び合う良い機会となり、「こういう活動をしている人たちが他にもいると知り、勇気付けられた」ということばも聞くことができました。菜園活動は、野菜をつくって子どもたちに健康的な食事を提供できるようになるという具体的な成果以外に、参加者が自分たちの活動に自信をもち、前向きになるという、人々の内面的変化をもたらすことができました。参加者ひとりひとりの自信と熱意が、更に大きな未来への希望につながっていきます。(日本国際ボランティアセンター 南アフリカ事業担当 渡辺直子さま)

軍事攻撃を受けたパレスチナのガザ地区に届いた「いのちのミルク」

パレスチナ・ガザ地区への緊急支援

「特別ミルクが手に入らなかったために亡くなった子がいる」。チロシン血症、ガラクトース血症などの先天性代謝性疾患を持った子どもたちは通常のミルクをとることができず、特別な治療用ミルクは命綱です。ところが、そのミルクを支援する人は誰もいない——エルサレムでの国際NGOや国連組織の会議でこれらのミルクを支援する団体があるが聞きましたが、誰も手をあげません。そこでとにかくこの状態を子どもたちが乗り切って生きていくことができるように、特別ミルクの支援を決定しました。特別なミルクが到着すると、早速2人の子どものお父さんがミルクを取りに来ました。チロシン血症という疾患をかかえるヌールちゃんは来月で2歳になります。お父さんは、「ラファのトンネルが破壊されたことでいよいよミルクが入ってこなくなったと思い、怖かった」「攻撃が続く中でもミルクを探して回った。このミルクがないと黄疸症状を起こし、口などから血を流すこともある。顔や体が膨らんでしまうんだ。辛そうな様子を見ているのが苦しかった」と話します。何度も何度も「ミルクを持ってきてくれてありがとう」と伝えてくれました。ヌールちゃんはとても特殊な病気なので、何歳になるまでこのミルクが必要かも特定できず、医師が丁寧に観察を続けながら、治療を続けていくことになりました。(日本国際ボランティアセンター パレスチナ現地調整員 福田直美さまより)

毎月一口100円の寄付による参加をいただき、集まった基金で、貧困からの自立、自然災害などからの救済、復興の応援など、世界各地で進められている活動を支援します。

2008年度は、次の17事業に総額13,449,451円を拠出しました。

ミャンマーを直撃したサイクロン「Narugis」により被災したクンジュアゴン市全域にて巡回診療活動を支援し6,225人の被災者の診察が実施されました。(助成団体：AMDA)

中華人民共和国四川省で発生した大地震において被災した徳陽市什邡市における巡回診療活動のための医療用機材・機器と栄養給食を提供し、2,160人の患者の巡回診療を支援しました。(助成団体：AMDA)

大地震の傷跡が色濃く残るパキスタンのハベリ郡において3校の小学校の生徒240名へ生徒学習用机・椅子・黒板ならびにバトミントンラケットやバレーボールを提供し快適な教育環境づくりとスポーツ活動を通じた心のケアの実施を支援しました。(助成団体：JEN)

パキスタンのパンジャブ州において、家庭内暴力による被害を受けた女性や子どもの治療に用いる医薬品、医薬器具、栄養補助食品などを提供しました。(助成団体：メドゥサン・デュ・モンド・ジャパン)

妊婦の極度の栄養不足などにより48万人の障がい者がいるといわれるラオスにおいて、50台の車椅子・手漕ぎ三輪車の製造し、障がい者の社会参加を促す活動を支援しました。(助成団体：難民を助ける会)

停戦終結後に帰還してきた難民により急速に人口が増加しているリベリア共和国のロファ州において、人が生きていくための基盤である「安全な水資源」を確保するため、釣瓶式井戸の設置活動を支援しました。(助成団体：ピースウィンズ・ジャパン)

イスラエル軍の軍事攻撃を受けたパレスチナのガザ地区において、一定の物質を除いた食品を摂取しなければ命をおとす危険がある先天性代謝異常疾患を抱える子ども10人へ治療用ミルク(4～7週間分)を支給する活動を支援しました。(助成団体：日本国際ボランティアセンター)

ミャンマーを直撃したサイクロン「Narugis」により被災したヤンゴン管区およびエヤワディ管区において公的支援の届いていない500世帯の障がい児およびその家族に食料品・生活用品を提供しました。(助成団体：難民を助ける会)

栄養不足や劣悪な医療体制によって発達障害を負った子どもたちが多くいるラオスのビエンチャンにおいて、適切なりハビリテーションが行える環境づくりのため、理学療法機材を提供しました。(助成団体：難民を助ける会)

南アフリカ共和国において、家庭菜園研修を実施し、給食センターで菜園をつくりそれを給食に使うことによって子どもたちに健康的な食事を継続的に提供できる環境づくりを支援しました。(助成団体：日本国際ボランティアセンター)

モンゴル国ウランバートル市及びドルノド県において、家庭内暴力などで支援が必要な家庭にソーシャルワーカーを派遣し、個別カウンセリングを行う活動を支援しました。09年2月までに113家庭を訪問しカウンセリングを実施しました。(助成団体：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)

15-49歳人口におけるHIV感染率が15.2%(2007)であるザンビア共和国において、HIV/エイズに関する正しい情報と適切な治療法をシンプルで親しみやすくすぐめたパンフレットとポスターを開発し、学校や教会など人が大勢集まる場所で配布する活動を支援しました。(助成団体：AMDA社会開発機構)

独立以来、経済と政治の過渡期の状況が続き人身売買が後を絶たないモルダバにおいて、その被害者75人分の医療消耗品および栄養補助剤の投与の実施を支援しました。(助成団体：メドゥサン・デュ・モンド ジャパン)

パレスチナのガザ地区において、生活環境の悪化によって深刻な影響を受けている妊産婦・乳幼児のために、197人分の衛生キット(毛布・石鹸・シャンプーなど)の配布を支援しました。(助成団体：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)



◎JVC 以前の給食はごはんだけ
◎JVC ボランティア、サビーナさんが畑を説明している



◎JVC バラクワネ給食センターの畑とボランティア



◎JVC ヌールちゃんとその家族

アルモンド基金

TOTAL

アルモンド基金スタート以来、集まった基金は累計で2,020万円を超え、ユネスコをはじめ、10の団体に寄付しました。

* アルモンドリングシリーズは、ウェブサイトにてお申し込みいただけます。
<http://www.felissimo.co.jp/f/allumonde/>

デザインで世界をしあわせに導く……フェリシモとユネスコ共催のオンラインコミュニティ「DESIGN21: ソーシャルデザインネットワーク」から生まれたチャリティーリングシリーズを基金付きで販売しています。



2008年度は、10団体に総額12,004,745円を拠出しました。

ユネスコ本部に寄付し、開発途上国の子どもたちにアートやスポーツなどの機会を提供する「ドリームプロジェクト」を支援しています。

難民を助ける会ならびにThe Halo Trustへ寄付し、地雷除去活動や地雷回避のための教育活動などを支援しています。
メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンに寄付し、難病と闘う国内の子どもたちの夢の実現を支援しています。

WWF ジャパンに寄付し、さんご礁の保全やジュゴンの保護をはじめとする、自然環境の保全と野生動物保護のための調査やキャンペーン活動を支援しています。

ハンガー・フリー・ワールドに寄付し、西アフリカの国、ブルキナファソで、5歳以上の子どもたちの給食を提供する活動を支援しています。

全国盲導犬施設連合会に寄付し、視覚障害を持った方を安全に快適に誘導する盲導犬の育成を行う8カ所の公認施設を支援しています。

シェアに寄付し、HIV感染の予防や、偏見・差別を軽減するための活動やHIV陽性者やその家族への精神的・社会的サポートをする活動を支援しています。

日本対がん協会に寄付し、ピンクリボン運動などのキャンペーン活動のほか、乳がん検診に携わる医師・技師への研修など、乳がん征圧のためのさまざまな活動を支援しています。

タゴール協会に寄付し、インドの西ベンガル州、オリッサ州、ジャルカント州の砂漠化した地域での住民参加の森づくりを支援しています。

骨髄移植推進財団に寄付し、より多くのドナー登録を募るための骨髄バンクの広報活動を支援しています。

笑顔あふれる安全な大地をめざして 地雷対策活動

アルモンド基金の支援先のひとつ、難民を助ける会では、国際NGOであるThe Halo Trustを通して、アフガニスタン北部のバグラム州、サマンガン州、バルフ州、および北東部タカール州における除去活動を支援し、2008年9月～2008年12月までに、1,008個の対人地雷、144,117個のクラスター爆弾を含む不発弾を処理することができました。この除去活動により、3,919,090㎡の土地が安全になりました。この他、難民を助ける会では地雷回避のための教育活動や被害を受けた人々への支援にも取り組んでいます。

* フェリシモでは、アルモンド基金のほか、「メリーで社会貢献」(P.6)でもこの地雷の問題を支援しています。

フェリシモ アクティビティーズ

* フェリシモアクティビティーズの商品は、ウェブサイトにてお申し込みいただけます。
<http://www.felissimo.co.jp/ecolor/>

カタログ『ecolor [エコラ]』に掲載のフェリシモ アクティビティーズの商品の一部を基金付きで販売しています。



2008年度は、3団体に総額4,174,644円を拠出しました。

ユネスコ寺子屋基金として、日本ユネスコ協会連盟へ寄付し、読み書きできない子どもや大人への識字教育などの教育支援を支援しています。

ADEHPRIへ寄付し、ベルーの貧困地域の農民への技術指導や栄養指導などの自立支援に活用されています。

ザ・チルドレン・オブ・セブファウンデーションへ寄付し、フィリピン・セブ島のストリートチルドレンとなった子どもたちの衣食住、教育、医療などの総合的な支援に活用されています。

子どもたちの笑顔のために ストリートチルドレン支援活動

ボランティアのソーシャルワーカーなどによってセブ島のストリートチルドレンを保護し、「バリアン・ドロップ・イン・センター」にて衣食住をはじめ、教育、医療などの支援を目的としたザ・チルドレン・オブ・セブ・ファウンデーションの活動を継続的に支援してきました。センターは開設から2008年度までに、のべ4,000人の子どもたちをケアし、その中から90人もの子どもたちが大学へ進学することができました。

mama.f スマイリー基金

TOTAL

mama.f スマイリー基金は、2003年のスタート以来累計で1,340万円を超え、世界10カ国で子どもたちを支援することができました。

* mama.f スマイリー基金付き商品は、年2回発行する年間予約カタログおよび、mama.f 商品のカタログにてご案内しています。なお、これらのカタログは、会員の方にコレクションとともにお送りしています(すべての方にお届けしているわけではありません)。

子どもを持つプランナーmama.fの「世界中すべての子どもたちが健康で、楽しい毎日が過ごせるように」という思いから、基金付きで商品を販売しています。



2008年度は、3事業に総額2,900,000円を拠出しました。

例年になく干ばつにあえぐエチオピアなどの栄養失調の子どもたちに、国境なき医師団を通じて約22,000食の栄養治療食(RUF)を贈ることができました。

2007年に引き続き、カンボジアの農村地域の子どもたちに「幼い難民を考える会」を通じて400人の子どもたちの1年間分の栄養ある給食を贈ることができました。

フィリピンのマニラ首都圏でのストリートチルドレンをはじめとする恵まれない青少年たちに「国境なき子どもたち」を通じて20人の子どもの1年間の学用品費、食費、医療費、課外活動費を贈ることができました。

フェリシモ子ども基金

TOTAL

NUSY ラブ&ピースシリーズを含むフェリシモ子ども基金は、2001年のスタート以来累計で5,140万円を超え、世界各地の子どもたちを支援しています。

* NUSY ラブ&ピースシリーズは、ウェブサイトにてお申し込みいただけます。
<http://www.felissimo.co.jp/nusy/nusy911/>

はな*はな*みどり基金

* はな*はな*みどり基金付き商品は、カタログ『しあわせの母の日』をはじめ、植物商品の一部を、ウェブサイトにてご案内しています(通年でご案内している商品ではありません)。

トリビュート21基金

TOTAL

トリビュート21基金は、1996年のスタート以来累計で9,760万円を超え、ユネスコ本部をはじめ117の団体に寄付しました。

* トリビュート21プレートは、ウェブサイトにてお申し込みいただけます。
<http://www.felissimo.co.jp/t21/>



2001年に起きた米国同時多発テロ事件をきっかけに、子どもたちにしあわせな未来を残そうとメッセージを発信して基金もできるnusy ラブ&ピースメッセージTシャツを発売し、集まった基金を世界の子どもたちのための活動に寄付しています。

2008年度は、日本ユネスコ協会連盟を通じて北京市ユネスコ協会に総額1,908,170円を拠出しました。

2008年5月、四川省北川にて倒壊した、北川中学校(現在は近隣の公共施設に間借りして授業を行っています)の新校舎の再建をめざし、この春着工した、と報告がありました。校舎は本年度中の完成予定で、フェリシモからの基金は、子どもたちの教材、教育機材に活用される予定です。

* 2008年度、フェリシモでは、四川省への支援プログラムを「フェリシモ子ども基金」のほか、カタログ『ラヴィッツ』の基金(P.6)、株主優待ハッピーサンタクロース(P.7)でも支援を行いました。



「あなたが贈るお花が世界で植えられる植物とつながりますように」という願いをこめて、カタログ『しあわせの母の日』に掲載の商品をはじめ、一部、お花・植物を基金付きとして販売し、集まった基金で世界の植林活動を支援しています。

2008年度は、総額1,641,438円を拠出しました。

タゴール協会に寄付し、2008年度はインドに約6万本の苗木を植えることができました。

「世界の子どもたちにしあわせを贈るプレート」として各界で活躍する著名人や一般公募によって選ばれたお客さまがデザインしたトリビュート21プレートや関連商品を基金付きで販売しています。

2008年度は、総額1,377,160円を拠出しました。

プレート販売で集まった基金は、ユネスコ本部をはじめとする20の団体に寄付しました。

ユネスコ本部
日本国際ボランティアセンター
The Nepalese Youth Opportunity Foundation
日本文化伝統産業近代化促進協議会
アジアMANGAサミット運営本部
メドウサン・デュ・モンド ジャパン
ファミリーハウス
日本漫画家協会
Northern Alaska Environmental Center
MOTTAINAIキャンペーン事務局
NDI
CHANGE FOUNDATION
Lower East Side Needle Exchange Program
国境なき医師団日本
日本文化伝統産業近代化促進協議会
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
インドバキスタン青少年と平和交流をすすめる会
WWFジャパン
Operation Smile
全国盲導犬施設連合会

TRIBUTE 21



2009年版トリビュート21 コンセプト PandA (Philosophy and Action)

2009年版トリビュート21は、子どもたちの未来に想いを込めるPhilosophy(哲学)、想いを実現させるAction(行動)の2つの意味を融合させたPandA(Philosophy and Action)をコンセプトとして、中国・四川省大地震の被害に遭われた子どもたちを支援する目的で展開しています。2009年版トリビュート21プレートや関連商品の販売によって集まった基金は、主にユネスコ本部を通じて四川省へのドリームセンター設立、ならびに中国対外友好協会を通じて、被災した子どもたちの給食費・教科書代・寮生の宿泊費として活用されます。2009年6月には、847,225円をユネスコ本部、中国対外友好協会の2団体に寄付する予定です。

メリーで社会貢献

TOTAL

メリーで社会貢献は、2002年のスタート以来累計で7,970万円を超え、それぞれの活動を支援することができました。

* メリーで社会貢献は、フェリシモコレクションのお買い物で贈りする「フェリシモメリー(mr)」にてお引き換えいただくことができます。

* メリーで社会貢献は、ウェブサイトにてお申し込みください。なお、最新情報は随時ウェブサイトにてご確認ください。
<http://www.felissimo.co.jp/merry/>

フェリシモが発行するお買い物ポイント“フェリシモメリー”でプレゼントを選ぶ代わりに、社会性ある活動に寄付するプログラムです。集まったメリーの相当額をそれぞれの活動に寄付しています。



2008年度は、次の活動に総額16,305,790円を拠出しました。

「自然環境の保全と野生動物の保護活動支援」では、WWF ジャパンに寄付しました。サンゴ礁の保全やジュゴンの保護など自然保護活動に活用されています。

「ブルキナファソの子どもたちへの栄養改善事業支援」では、ハンガー・フリー・ワールドに寄付しました。西アフリカの国、ブルキナファソの乳幼児妊産婦栄養改善事業に活用されています。

「紛争地域の子どもたちへの医療活動支援」では、ドイツ国際平和村に寄付しました。紛争地域など海外から受け入れた子どもたちを治療したり、現地での医療支援を行いました。

「国内の難病のこどもの夢をかなえる活動支援」では、メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパンに寄付しました。手づくりで、ひとりひとり違う子どもたちの夢をかなえる活動に活用されています。

「HIV（ヒト免疫不全ウイルス）/AIDS（エイズ）対策活動支援」では、国境なき医師団日本、日本国際ボランティアセンター、AMDA社会開発機構、AMDAに寄付しました。開発途上国の人々へのエイズの治療薬の提供、南米でのエイズ予防のための教育プログラム、南アフリカのエイズ感染者への生活支援に活用されています。

「地雷廃絶活動支援」では、難民を助ける会に寄付しました。地雷回避教育ならびに地雷被害者への自立支援活動に活用されます。また、基金の一部は、イギリスの地雷除去活動専門NGO The Halo Trustを通じて、地雷除去活動に活用されています。

「盲導犬育成支援」では、全国盲導犬施設連合会を通じて、全国の8カ所の盲導犬育成施設に寄付しました。それぞれの施設で盲導犬の育成や活動の啓蒙、また、引退した盲導犬たちの支援に活用されています。

「国内医療支援」では、骨髄バンク、日本さい帯血バンクに寄付しました。白血病などの血液難病に苦しむ患者を救うため、その活動を広く社会に普及する事業に活用されています。

「動物たちの保護と飼い主探し支援」では、ライフポート友の会をはじめとして国内の14の団体に対して寄付しました。無責任な飼い主に捨てられ、保健所などで処分されそうになる動物たちを保護し、新たな飼い主を探す活動に活用されています。

寄付先： ライフポート友の会/アニマルレフュージ関西/動物たちを守る会ケルビム/日本アニマルトラスト/ペット里親会/動物いのちの会いわて/どうぶつ福祉の会AWS/保健所の成犬・猫の譲渡を推進する会/日本ドッグホーム協会/P A K 保健所の犬・猫を救う会/みやざき動物のいのちを守る会/人と犬猫との共生を考える ハッピーテール/北九州ノアハウス/トータル・サポート

神戸学校

TOTAL

神戸学校の参加料による寄付は、2000年の基金スタート以来累計で960万円を超え、これまでに桃柿育英会ならびにあしなが育英会神戸レインボーハウスに寄付することができました。

* 神戸学校は毎月開催しています。最新情報はウェブサイトにてご確認ください。
<http://www.felissimo.co.jp/kobe/>

株主優待 ハッピーサンタクロース

TOTAL

株主優待ハッピーサンタクロースは2006年にスタート以来、累計で70万円を超え、さまざまな活動を支援することができました。

収集ボランティアによる支援活動

毎月1回、テーマにふさわしいゲストを神戸にお招きしてレクチャーやワークショップを開催する神戸学校は、集まった参加料を基金として、全額を寄付しています。

2008年度は、あしなが育英会神戸レインボーハウスに総額370,600円を拠出しました。

神戸レインボーハウスは、神戸で阪神・淡路大震災の遺児の心の癒しを日常的に実践している場です。全国、全世界からの募金によって、1999年1月に完成して以来、遺児たちの心のケアについて、さまざまなプログラムを実践しています。また、病気・災害・自死遺児らの大学生、専門学校生の寮「虹の心塾」を併設し、彼らの就学を支援しています。

2008年度、神戸学校は全12回開催しました。

2008年度ゲスト

- ・喜多 俊之さん(プロダクトデザイナー)
- ・アレックス・カーさん(東洋文化研究家)
- ・村田 智明さん(プロダクトデザイナー・株式会社ハーズ実験デザイン研究所 代表取締役)
- ・山口 晃さん(現代美術家)
- ・藤本 智士さん(クリエイティブエディター)
- ・永田 俊也さん(作家)、笑福亭 純瓶さん(落語家)
- ・木村 宗慎さん(茶道家・コーディネーター)
- ・塚本 修史さん(映像作家・携帯写真家)
- ・武田 双雲さん(書道家)
- ・増田 喜昭さん(子どもの本の専門店メリーゴーランド店主)
- ・高田 恵太郎さん(「神戸コレクション」エグゼクティブディレクター)
- ・佐野 章二さん(ビッグイシュー日本代表・CEO)

フェリシモの株を100株以上所有される株主のみなさまに対する株主優待制度としてプレゼントを選ぶ代わりに社会貢献活動を選んでいただくコースです。ご支持いただいた件数の相当額を寄付しています。

2008年度は、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと日本ユネスコ協会連盟に総額243,000円を拠出しました。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでは、2008年5月に発生したミャンマーサイクロンの被災地支援に活用されます。日本ユネスコ協会連盟では、2008年5月に発生した四川省大地震で被害を受けた子どもたちの教育支援に活用されます。

こどものいのちは地球の未来 ブルキナファソの子どもたちへの栄養改善事業

西アフリカのブルキナファソは、5歳までに命を落としてしまう子どもたちの数はおよそ5人に1人と、その水準は世界で最下位から7番目(UNICEF子供白書2009)の状態にあるといわれています。そんな中、子どもたちの栄養状態を改善し、病弱にかかりにくい身体をつくること、そして、子どもたちの発育の鍵を握るお母さんたちに、身近にあるものから栄養のある食事を作る方法や、正しい保健衛生の知識を身につけてもらうことをめざすハンガー・フリー・ワールドの活動を支援しました。毎週水曜日に保健センターで行う定期診断では、子どもたちの体重測定などの健康管理、寄生虫予防の薬の配布や、マラリアの治療などの医療提供とともに、現地の材料で作ることのできる栄養改善粥の作り方や正しい授乳の知識や、乳幼児の栄養管理の知識を身につけてもらう啓発活動も行われています。この地域では、ほとんどの家庭で一日1~2食食べるのがやっとのこと。一回の食事で多く食べることのできない子どもにとっては、とても足りません。食事の回数を増やすことが困難でも、子どもたちが数回に分けて適量食べるように工夫するだけで、必要な栄養量に近づくことができます。お母さんたちがすぐに実践できる知識から、衛生管理など変化に時間がかかることまで、毎週お母さんたちとの対話を続けることが重要です。

また、月に一度の農村部への出張診療では、ときには100人以上の子どもたちが集まることもあり、今までは、見逃していた栄養不良児を特定できるようになりました。それを受け、事業の対象人数も累計380人以上になりました。中には、片道8口の道のりを、双子を抱いて歩いて通ってくるお母さんもいます。それでも、毎週欠かさず通ってくることで、5ヶ月間で体重がほぼ標準体重まで増えました。「だんだん子どもの体重が増えるので、抱いて来るのは大変だけど、その分子どもたちが健康になっているということなので、嬉しさも増します」と、お母さん。今後は、増加する人数に対応するため、定期診断の流れを効率化することが課題です。(ハンガー・フリー・ワールド 富山さまより)

その他 基金付き商品の 販売による基金

「木でできた鈴 MOKURIN(もくりん)しずくストラップの会」を基金付きで販売し、集まった基金644,544円をどんぐりの会に寄付しました。

広葉樹の森づくりの活動に活用されています。カタログ「ラヴィッツ」が、「KOBE COLLECTION」とコラボレーションして生まれた商品を基金付きで販売、集まった基金624,600円を社団法人日本ユネスコ協会連盟に寄付しました。2008年5月に発生した四川省大地震で被害を受けた子どもたちの教育支援に活用されています。

2008年5月24日から26日まで神戸で開催されたG8環境大臣会合開催記念の風呂敷「エコ×デザイン風呂敷 ICHIMATSU」を基金付きで販売し、集まった基金71,430円をタゴール協会に寄付し、インドの植林活動を支援しています。

カタログ「ano.ne(アノ:ネ)」に掲載の一部商品を同基金付きで販売、2008年度は2団体に総額157,628円を拠出しました。

- 「アノ:ネ親子基金」より集まった125,909円を日本自然保護協会に寄付しました。日本自然保護協会では、日本での自然保護問題を具体的に解決するために、地域NGO等と協力し、保護・調査研究・環境教育の3分野から活動を進めています。
- 「アノ:ネ親子でおともだちを助けよう基金」より集まった31,719円をハンガー・フリー・ワールドに寄付しました。ハンガー・フリー・ワールドでは、アフリカ、ベナン共和国のベト村の子どもたちのための幼稚園運営を支援しています。

このほかの基金付き商品ならびに既にカタログ等で非掲載になっている基金付き商品の販売によって集まった基金、総額547,345円を4団体に寄付しました。寄付団体:セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン/シェア=国際保健協力市民の会/ユネスコ本部/Operation Smile

フェリシモ ハッピートイズ プロジェクト

TOTAL

フェリシモハッピートイズプロジェクトでは、1997年のスタート以来、30,000個を超えるハッピートイズが誕生し、日本を含む32カ国の子どもたちへ寄贈しています。



全国のお客さまに思い出の布や毛糸を使って毎年新しいテーマとともに発表されるキャラクターぬいぐるみ“ハッピートイズ”を手作りしていただくプロジェクト。誕生したハッピートイズは笑顔の親善大使として国内外の子どもたちに寄贈しています。

2008年度は、計3,050個のハッピートイズを国内外の子どもたちに寄贈しました。

<寄贈先>

日本の子どもたちへ (協力団体:あしなが育英会)
ホンジュラスの子どもたちへ (協力団体:AMDA社会開発機構)
ミャンマーの子どもたちへ (協力団体:セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン/AMDA社会開発機構)
モンゴルの子どもたちへ (協力団体:セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)
カンボジアの子どもたちへ (協力団体:日本ユネスコ協会連盟)
ラオスの子どもたちへ (協力団体:エファジャパン)

*2008年度は、新たに4,738個の元気なクマちゃんが生れました。

*フェリシモハッピートイズプロジェクトの情報はウェブサイトにてご案内しています。なお、新しいキャラクターは毎年初夏に発表しています。最新情報はウェブサイトをご確認ください。
<http://www.felissimo.co.jp/toys/>

フェリシモの 基金活動について

本報告書に報告しています活動は、みなさまからお寄せいただきました基金と、お客さま、お取引先さま、株主のみなさま、従業員、現地で活動を行う団体、個人など、活動に関わるすべての人々によって支えられています。

本当にありがとうございます。

ひとりひとりの力は小さくても、それぞれの思いを重ねることで、たくさんの夢を実現しています。

これからも、みなさまの思いを生かした活動を展開していきたいと考えています。

なお、フェリシモでは、おひとりおひとりのお気持ちを

「全額、直接的な支援活動に生かす」を原則とし、報告書発行などの

広報活動や基金事務局の運営費用等はフェリシモが負担しています。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

ご意見・ご提案について

フェリシモの基金活動についてのご意見、ご提案をお寄せください。

<http://www.felissimo.co.jp/otayori/>

2008年度 基金拠出先一覧

すべての基金の拠出先です。

2008年度は、国内外の58団体の活動を支援しました。

タゴール協会
認定特定非営利活動法人難民を助ける会
社団法人日本ユネスコ協会連盟
社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン
社団法人国土緑化推進機構
財団法人WWFジャパン
認定特定非営利活動法人全国盲導犬施設連合会
認定特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド
ユネスコ本部
認定特定非営利活動法人AMDA
認定特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター
CCC自然・文化創造会議/工場
認定特定非営利活動法人メドゥッサン・デュ・モンド ジャパン
ドイツ国際平和村
認定特定非営利活動法人国境なき医師団日本
認定特定非営利活動法人幼い難民を考える会
認定特定非営利活動法人ライフポート友の会
認定特定非営利活動法人AMDA社会開発機構
認定特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会

特定非営利活動法人国境なき子どもたち
特定非営利活動法人ジェン
特定非営利活動法人アニマルレフュージ関西
認定特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
どんぐりの会
財団法人骨髄移植推進財団
認定特定非営利活動法人動物たちを守る会ケルビム
認定特定非営利活動法人日本アニマルラスト
認定特定非営利活動法人ペット里親会
ザ・チルドレン・オブ・セブ・ファウンデーション
社団法人シャンティ国際ボランティア会
財団法人日本対がん協会（ほほえみ基金）
動物いのちの会いわて
どうぶつ福祉の会AWS
認定特定非営利活動法人保健所の犬・猫の譲渡を推進する会
日本ドッグホーム協会
PAK保健所の犬・猫を救う会
日本さい帯血バンクネットワーク
あしなが育英会
ADEHPRI

認定特定非営利活動法人みやぎ動物のいのちを守る会
人と犬猫との共生を考える ハッピーテール
認定特定非営利活動法人ノアハウス
認定特定非営利活動法人トータル・サポート
財団法人日本自然保護協会
社団法人日本国際民間協力会
The Nepalese Youth Opportunity Foundation
認定特定非営利活動法人アジアMANGAサミット運営本部
認定特定非営利活動法人ファミリーハウス
社団法人日本漫画家協会
Northern Alaska Environmental Center
MOTTAINAIキャンペーン事務局
National Dance Institute
CHANGE FOUNDATION
Lower East Side Needle Exchange Program
日本文化伝統産業近代化促進協議会
Operation Smile
インド・パキスタン青少年と平和交流をすすめる会
(以上、基金拠出金額順)

* 報告書本文中では、法人格を省略して紹介させていただきます。

* 団体名称は、基金拠出時のものです。

フェリシモ基金活動ページ

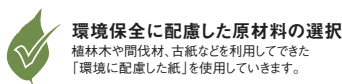
本報告書は、2009年5月現在の情報をもとに作成しています。本報告書は、ウェブサイト上でPDFデータでもご覧いただけます。

<http://www.felissimo.co.jp/kikin/>

2008年度
フェリシモ基金活動報告書

発行元：フェリシモ基金事務局
株式会社フェリシモ
〒650-0035 神戸市中央区浪花町59番地
TEL. 078-325-5700 (平日9:30~17:30)
FAX. 0120-055-827
発行：2009年6月

ともにしあわせになるしあわせ



59 NANIWA-MACHI CHUO-KU KOBE 650-0035 JAPAN

7465